

# 地域資源循環モデルの構築をめざして

— バイオコークスを防災備蓄燃料として利用 —

神戸市では、スターバックス、マクドナルド、モスバーガーの店舗から発生する廃棄物や、道路や公園の剪定枝等の廃棄物を使って「バイオコークス」を製造し、地域で資源を循環利用する実証実験を実施しています。

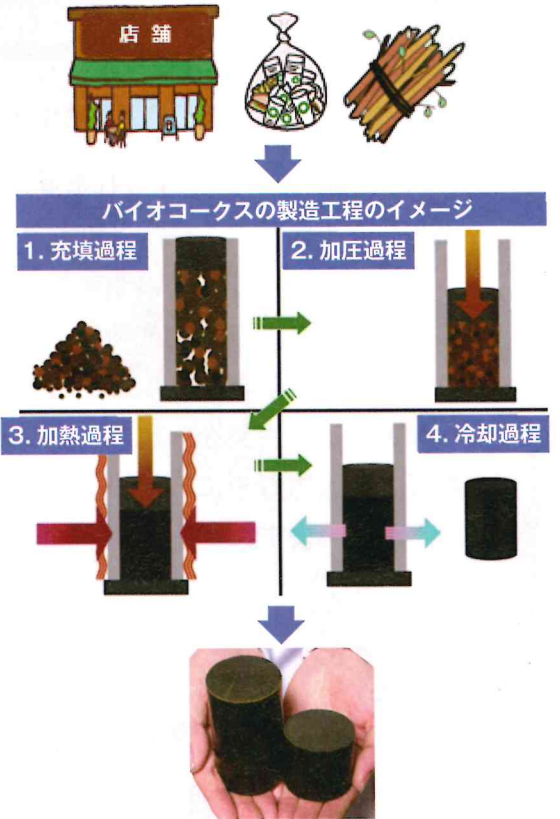
## バイオコークスとは

もみガラ、間伐林、お茶かすおよびコーヒー豆かす等の「バイオマス（生物由来の有機性資源のうち化石資源を除いたもの）」を原料として製造する固形燃料で、近畿大学が開発したものです。

植物資源等を100%原料にしているため、環境にやさしい再生可能エネルギーとして期待されています。また、密度が高く水分含量が低いことから、長時間の燃焼と長期間の保存が可能です。

## バイオコークスがもたらす効果

- ゴミ排出量の減量
- 石炭コークス等の化石燃料の代替によるCO<sub>2</sub>排出量の削減
- 資源循環の「見える化（飲食店舗、温浴施設等での利用）」による市民の環境意識の醸成



## 今後の取り組み

現在、地域の皆さんの協力を得て地域資源循環のモデル実施を進め、多方面でのバイオコークスの活用を検討しています。今後も、引き続き様々な実証実験や調査を行い、地域資源循環モデルの構築をめざしていきます。

## 今後期待されるバイオコークスの利用

- バイオマス発電
- バイオマスボイラー
- 防災用備蓄燃料 等

## 地域におけるモデル実施

平成29年12月3日(日)、井吹台地域総合防災訓練が行われ、井吹台ジュニアチームの子どもたちがバイオコークスを燃料にしたかまどで豚汁を作りました。



井吹東ふれあいのまちづくり協議会  
坂本津留代 委員長

「今回の防災訓練で使用したストーブやバイオコークスがあれば、お湯を沸かして備蓄食料を調理したり、日用品を消毒したりできるほか、暖を取ることもできます。バイオコークスを備蓄品に加えることによって、避難開始直後から自力で対応できるので、とても有効だと思います。」



バイオコークス  
啓発PRブース



かまどストーブによる豚汁の炊出し

問い合わせ

環境局事業系廃棄物対策部 TEL 322-6672